

<b>技術分野</b>	<b>がん特異性とがん病巣集積性に優れる新規細胞免疫療法の開発</b>
医療・福祉	

<b>安川 正貴</b>	<b>愛媛大学 大学院医学系研究科</b>	<b>教授</b>
--------------	-----------------------	-----------

<b>キーワード</b>	<b>がん 免疫療法 遺伝子治療 リンパ球</b>
--------------	---------------------------

**研究概要**(平成21年度シーズ発掘試験A:発掘型採択課題)

現在国内で、活性化リンパ球を用いたがんに対する細胞免疫療法が実施されているが、投与するリンパ球のがん特異性とがん病巣集積性に劣り、期待される治療効果が得られていないのが現状である。これらの問題を克服するために、がん特異的T細胞レセプター遺伝子とがん組織に高発現されるケモカインに対するレセプター遺伝子を同時に強制発現させた細胞傷害性T細胞による新規がん細胞免疫療法を提案した。このことによってがん治療効果の飛躍的な向上が期待できる。

**従来・競合技術からの優位性**

本研究で用いるTCR遺伝子は、ほぼすべてのがん細胞を認識でき、効率性と汎用性に優れるものであり、汎用性が乏しかったこれまでの技術と比較して極めて新規性があり、革新的ながん細胞免疫療法の確立が期待できる。また、これまでになかったがん病巣集積性が期待できる新技術である。

<b>研究段階</b>	基礎研究段階 ・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">応用研究段階</span> ・ 実用化検討段階 ・ 企業化段階
-------------	--

<b>応用用途</b>	がん治療
-------------	------

<b>特許番号</b>	特許第4111394号・WO2005/061697	<b>名称</b>	改変標的化T細胞の製造方法及び医薬
<b>特許番号</b>	特開2009-065835	<b>名称</b>	HLA-A2 拘束性抗原ペプチドおよびその用途

**出展:「研究シーズの紹介」(JSTイノベーションサテライト高知)**